

## 「物盗られ妄想」を起こすのはなぜですか？

特徴は、被害的な内容のものが多く、その中でも財布や貯金通帳が盗まれた等を訴える「物盗られ妄想」が多いようです。特に認知症の初期から中期に多く見られ、ごく身近な人間が妄想の対象になりやすいといわれています。

妄想はもの忘れや判断力障害による、さまざまな失敗が周囲に注意されたり非難されたりすることで、それに対する防衛的な感情が働き、妄想に発展すると考えられます。

妄想への対応は、まず、説明や説得は効果がないことを理解してください。日常的に本人の不安感を解消していけるよう関わるのが、軽減のポイントといえます。

### 対応の留意点

#### 起こる前の対応

- 住環境づくり
- 生活環境づくり
- 家族とのつながり
- 信頼関係

不安



#### 起こってからの対応

- 説得ではなく納得
- プライドを大事にする
- 最後は先に折れる

不安をいかに解消するか

以前と比べてチェックリストのような変化が続くときは、すぐに最寄りの地域包括支援センター（地域によって名前が違うことがあります）や適切な医療機関に相談してみましょう。

もしかしたら認知症の初期かもしれません。でも心配はいりません。早く診断できれば、あなた自身やご家族が認知症についてきちんと理解する時間をもて、十分に対応できます。原因によっては治療法があります。

### チェックリスト

- 同じことを何度も言うとか聞くと周りから言われることが多い
- いつも探し物をしていることが多い
- 財布や通帳など大切なものがなくなる
- 約束を忘れたり、待ち合わせの場所に行き着けなかった
- 片付けや料理、運転などが以前のようにうまくできなくなった
- テレビのドラマは筋を追うのが面倒くさい
- 身だしなみを整えることが億劫になり、構わなくなった
- 趣味や好きなことに関心がなくなった
- 何をするのも億劫になった